へ13
4298

河竹其水案
竹柴濤治綴
竹柴諺藏綴
一惠齋芳幾画
錦耕堂梓

913.58
K298
1
A13
國 2 4298
217
早稲田大學教育學部
16172
<2000-359>

三影だけ
初へむ
上巻

一

本舞臺三編の間。脚色ハ河竹が道具立條を通しの二重家体に積る趣向の雪板を。並べ立たる段取も。鴫立澤の對面より引返しくる兩國で。盗もし金の百本枕。見立茶番の鏡臺も。流れくて深川の寸世界を仮宅に。義理にしがらむ契情の。賢なる柳の釣枝ハ替つて辻れ天矮羅蕎麥。あつい親子の恩愛に泣まて放れ行遠見。さて眼目の乳貰ひ場。燒野の雉子夜の鶴。亀戸の寮に夫婦の出合。その樓門のりんきり形。写す鏡の愁歎を。つゝるに忍ひず御女中様がさ。泪に流す紅白粉。ヤンヤと利て春狂言をてうど弥生の櫻木に。のぶすてゝ口上も戯作の道にあらしめやむのお下の役に申上す

癸亥弥生

竹柴言彦記

髪結
和國橋の藤次

藤次
藤次女房おむつ
藤次一子國松

おでん
酒

工藤左衛門室旅宿

鳴立沢
成

行

文久四甲子年新鐫藏版目錄

遊仙沓春雨艸紙　二十編　緑亭川柳作　一壽齋國貞画

田舍織糸線狹衣　五編　六編　仝作　同画

父漢土母和朝　國姓爺一代記　中本三編　初編ヨリ　三編マテ　讀切　假名垣魯文編　歌川芳直画

月宴更科譚　二編　三編　松園梅彥作　一勇齋國芳画

天神一代記圖會　中本一冊　柳下亭種員著　一勇齋國芳画

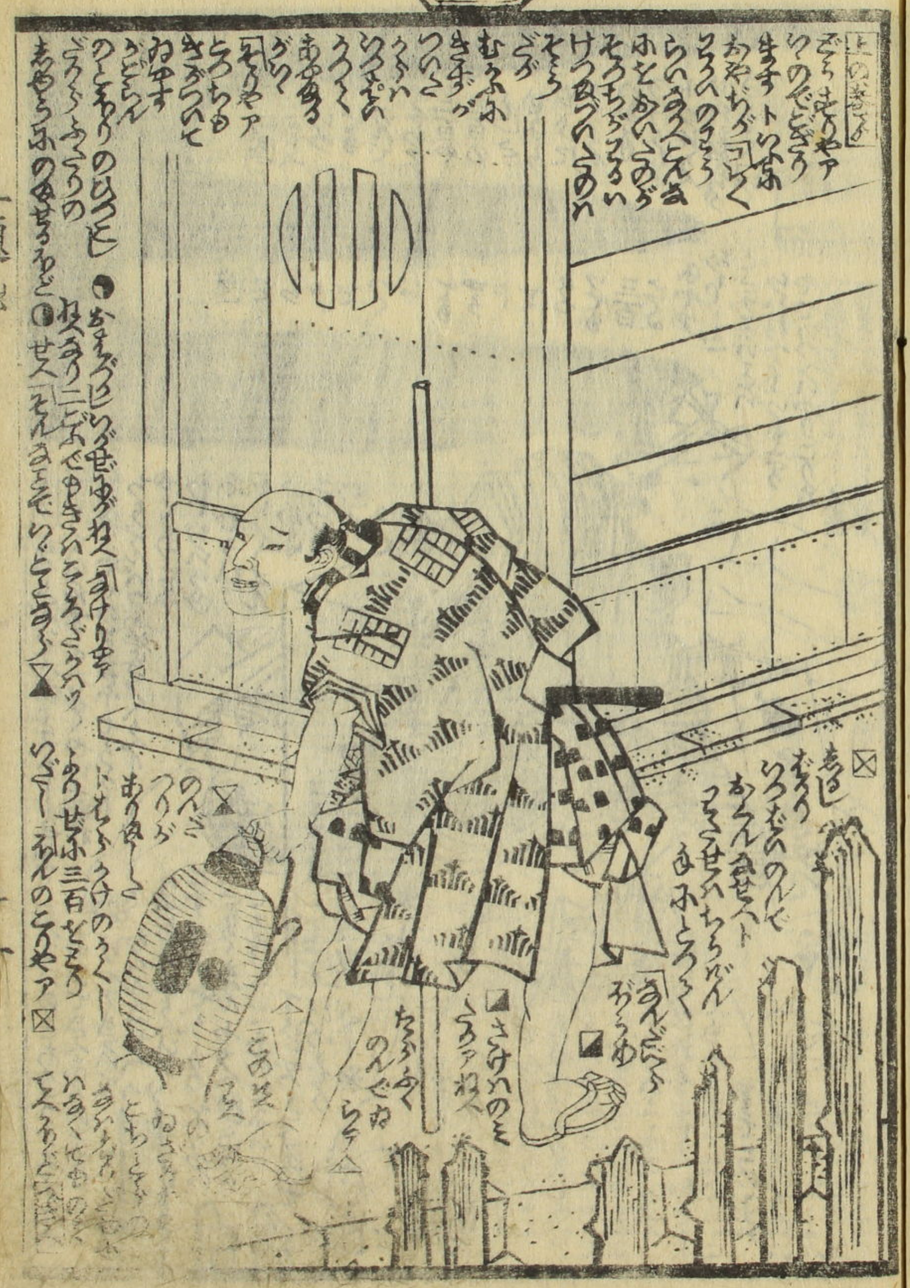
容色仙代萩　三編ニテ　讀切　一筆菴英壽作　一雄齋國輝画

東都書房　馬喰町貳丁目　錦耕堂藏板

髪結
國性爺
乳のしひ
三題咄高座新作
初へん
さんだいだなしゃうざのしんさく

下

三



市

唐人飴
市

竹葉清治繦　一惠齋芳幾画

藏販新刊珍奇雜書略目録

陔東太郎後世譚　九編　西馬作　十編　貞秀画

岸柳四魔談　四編　同作　五編　國輝画

勸善懲惡乘合噺　七編　柳下亭種員作　八編　一壽齋國貞画

詞花萱草紙　初編　墨川亭雪麿作　二編　一雄齋國輝画

初昔見聞沙看紙　編有人作　三編　芳盛画

今様八犬傳　七編　春水作　八編　國芳画

俠像水滸　俠銘鑑　三編　西馬作　四編　國輝画

伊賀越仇討　樂亭西馬作　一鶯齋國周画

松園白妙譚　二編　泉成作　三編　國明画

書物地本繪草紙問屋　東都馬喰町二丁目西側　山口屋藤兵衛

三題噺は立作の師匠が作のつまらもの夫を是非にと梓元の望なり
任してはたくらがましくも画びらぐれども画工を力に舞臺を有体俗に
寫せば道具や鳴物入時代を世話に作るへる河竹流の声色も少々
似たる三茄子其對面に因るる同門弟子のもやひ真。歌舞妓と違く
合巻は思ひ月さん雲このくを百本杭のくらこがりゆゑ探り合の初扁二編。
又明晩と紙を引ぬまかに配る掌札の爰が中編の中入に出せば
ぶつの袋入さて仙さまの法上りと口ゆいいへど牡きは素たり常雄
身上まで。遠ひし俗名のいろは冤常りを頼ふ冤一編。紅流し
から虎物造。法求めこのる常法子横ごかえ。所風聴の序文せら。
面白くもなければ可笑もなし。唯陽を呑このかくなり

甲子春

竹柴桃壽述

大國屋千山
春手の大屋
惣右衛門

春沢郎玄号
お民
平野屋
春沢郎

二編よとうじめ

文久四甲子年新鐫藏版目錄

遊仙沓春雨艸紙　編　緑亭川柳作　二十編　一壽齋國貞画

田舍織糸線狹衣　五編　仝作　六編　同画

父漢土母和朝　國姓爺一代記　中本　初編ヨリ三編マテ讀切　假名垣魯文編　歌川芳直画

月宴更科譚　二編　松園梅彥作　三編　一勇齋國芳画

天神一代記圖會　中本一冊　柳下亭種員著　一勇齋國芳画

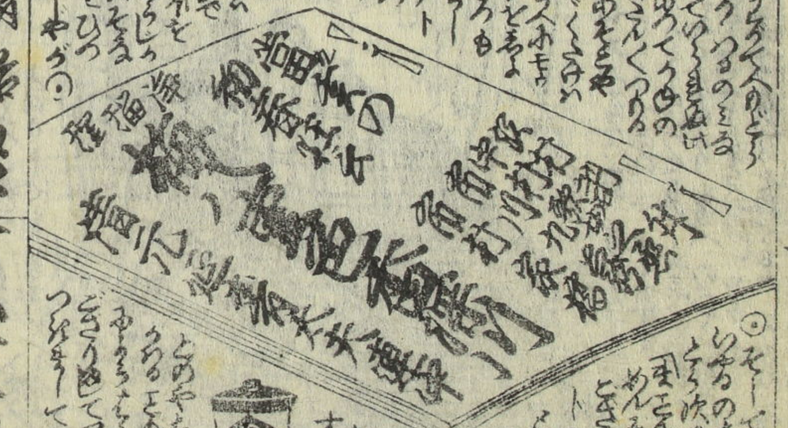
容色仙代萩　三編ニテ讀切　一筆菴英壽作　一雄齋國輝画

東都書房　馬喰町貳丁目　錦耕堂藏板

河竹新七案

竹葉清治　竹葉讀藝　綴

一惠仕芳幾画



三頭世高座新作二編
下

明治維新 名時人傳

こざいぎつね

二編之下

一冊之估完後ち
一兩日中様方
物絵ぬり遣し
申候間
御わすれなく
御くん

上の巻ごうり

子どもの
ふくろもそうつまうもさざ
ざごぞりまき廿本
ちのさのいち
ありをとこのまひとろでうて
をろと廿本がうんざとろ
そうへいろもよふつけてやり
まるどとういうをけるまくらぬれ
手きでまるおもろどのうんべんな
こしかあひさろひうかしてもく
ありこぞよのでいきのう「ありがとう
ますぐでなだりとく
キてもうちの色おそうらうのう
さいやまうくのうろふとさて

□ごうらいのろふくろ
うぐうあそこもでき
ませあマアこえて
ありけうさられ申せと
てぬらひにてせうきのう
ちりむこうろうてそえ
ケーそうけさせそのう
そもうさんへとそうけ
「トキニあろさどふ
ぶんそうおそえ
ハいりぐぐ
ぞうり申せ
イヤモウ
ご

▽あそこのやいとうぐいぐいぐ
そうのめとうぐいぐいぐ
ろうろうぐいぐいぐ「エそんなうさの
ろうそそんぐ「のとうすきいそうり申
ろうゆもあんーろうるとう
ぞうりぬせぬ◪

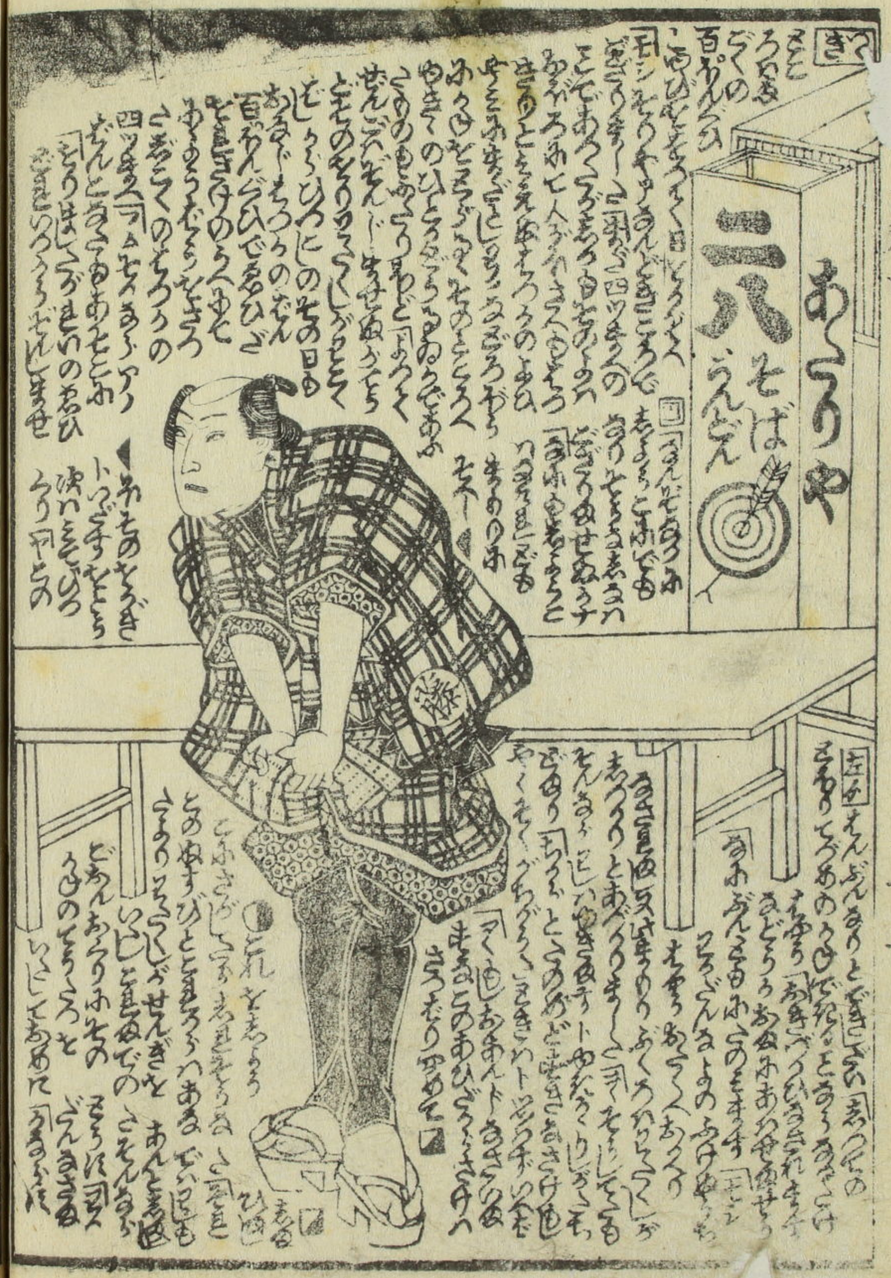
せうのうそれうりの奴
うのふんべろもさうり
せうそうとう▲

二八そば

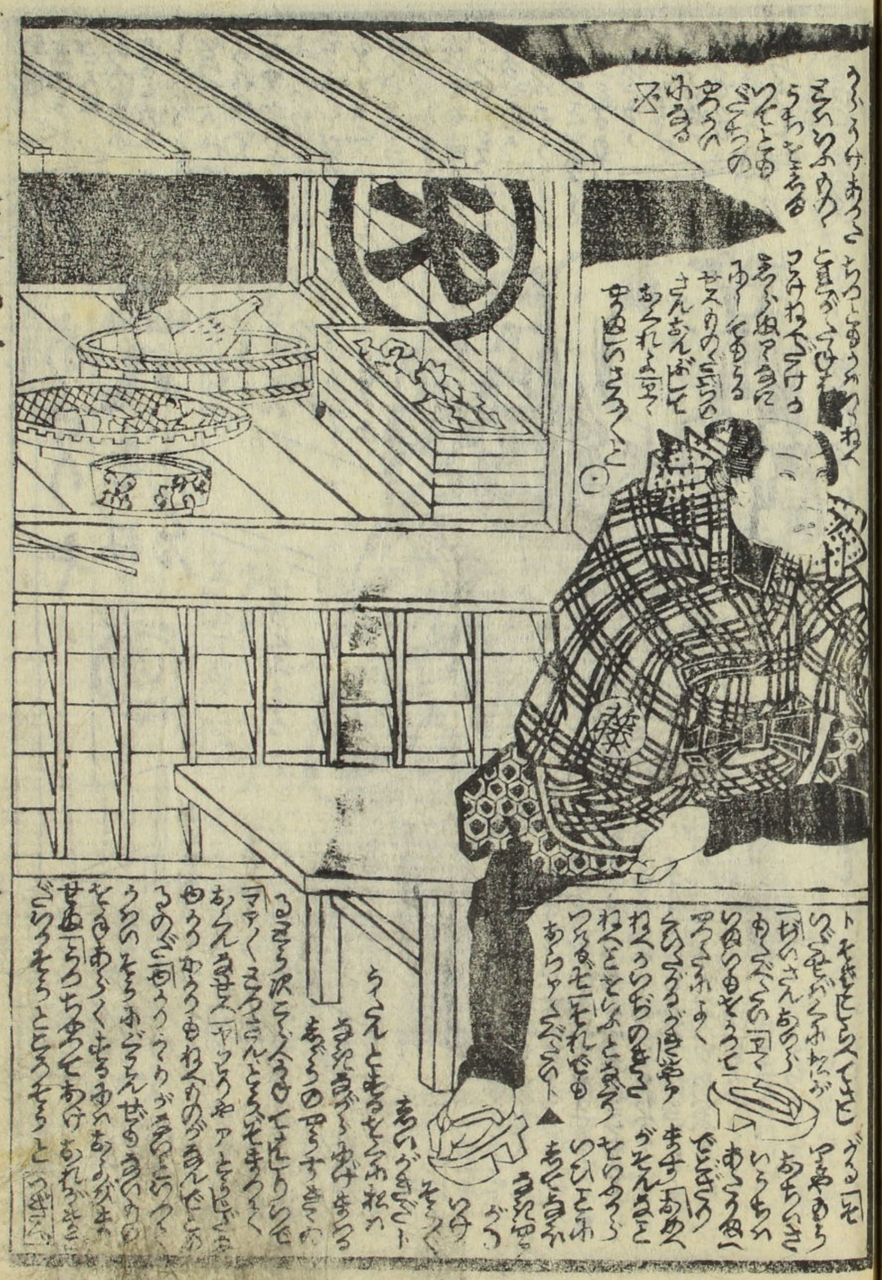
市
孝

あくりや

二八 そば うんどん



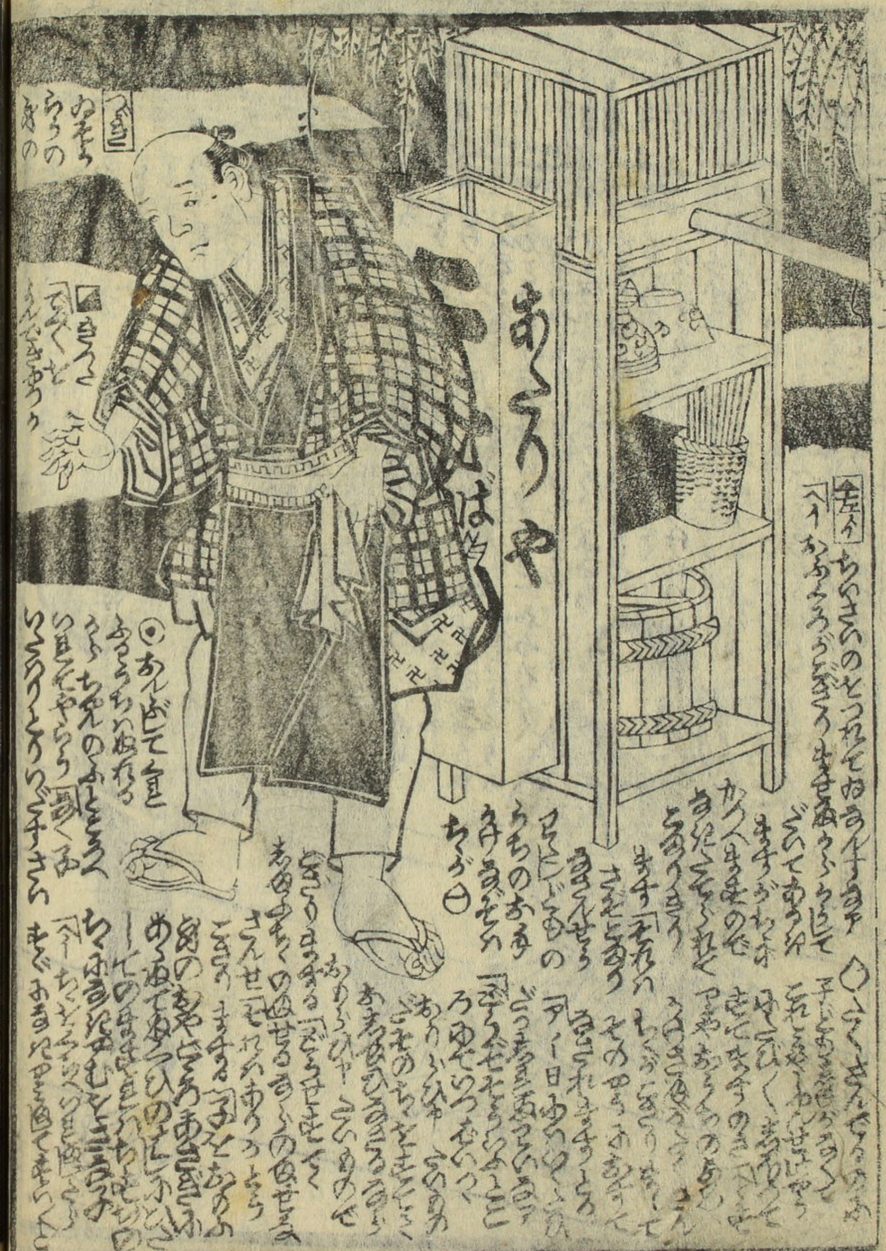
あたりや
二八そばえんどん



あくりや
二八そば
うんどん

藤

あくりや
二八そばえんどん



河竹案

諺藏合綴芳幾画

藏販新刊珍奇雜書略目録

阪東太郎後世譚 九編 西馬作 十編 貞秀画

俠像水滸 俠銘鑑 三編 西馬作 四編 國輝画

岸柳四魔談 四編 同作 五編 國輝画

伊賀越仇討 樂亭西馬作 一鶯齋國周画

勸善懲惡 乘合噺 七編 柳下亭種員作 八編 一壽齋國貞画

詞花萱草紙 初編 墨川亭雪麿作 二編 一雄齋國輝画

初昔見聞淡紙 編有人作 三編 芳盛画

松園白妙譚 二編 泉成作 三編 國明画

今様八犬傳 七編 春水作 八編 國芳画

書物地本繪草紙問屋 東都馬喰町二丁目西側 山口屋藤兵衛

三題噺高坐新作

三編上の巻

川竹新作

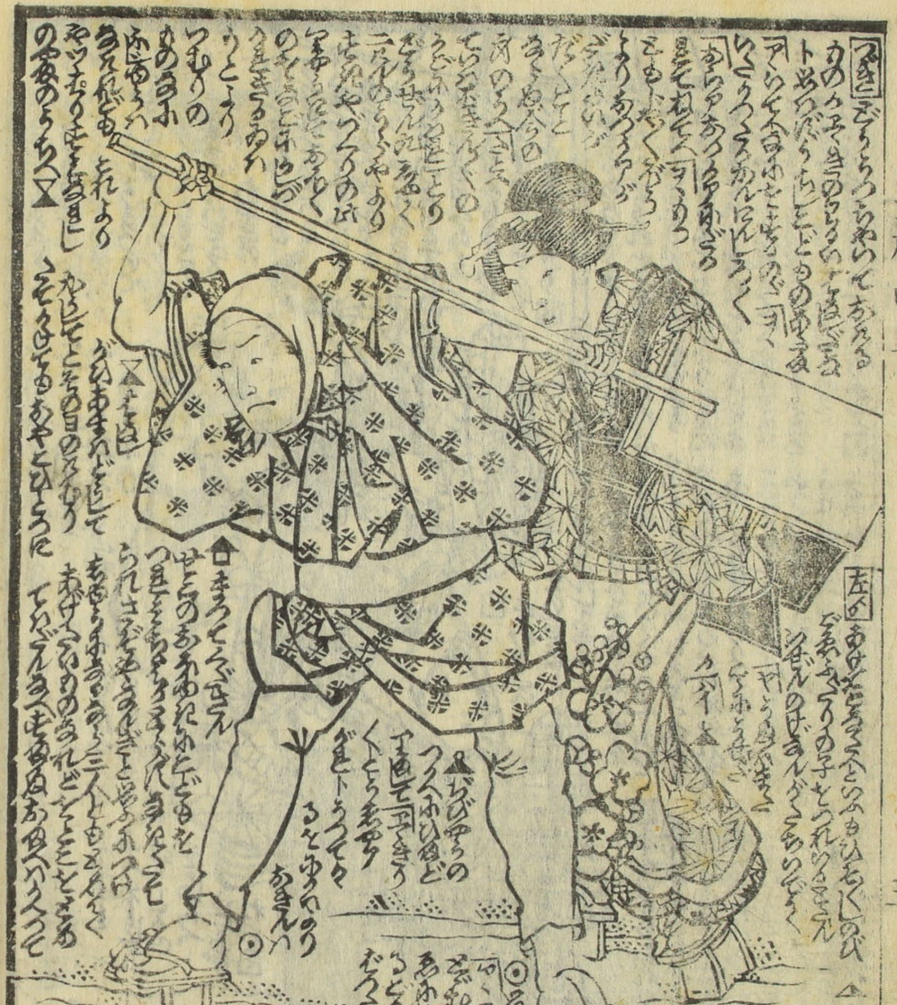
よしゑ

山口板

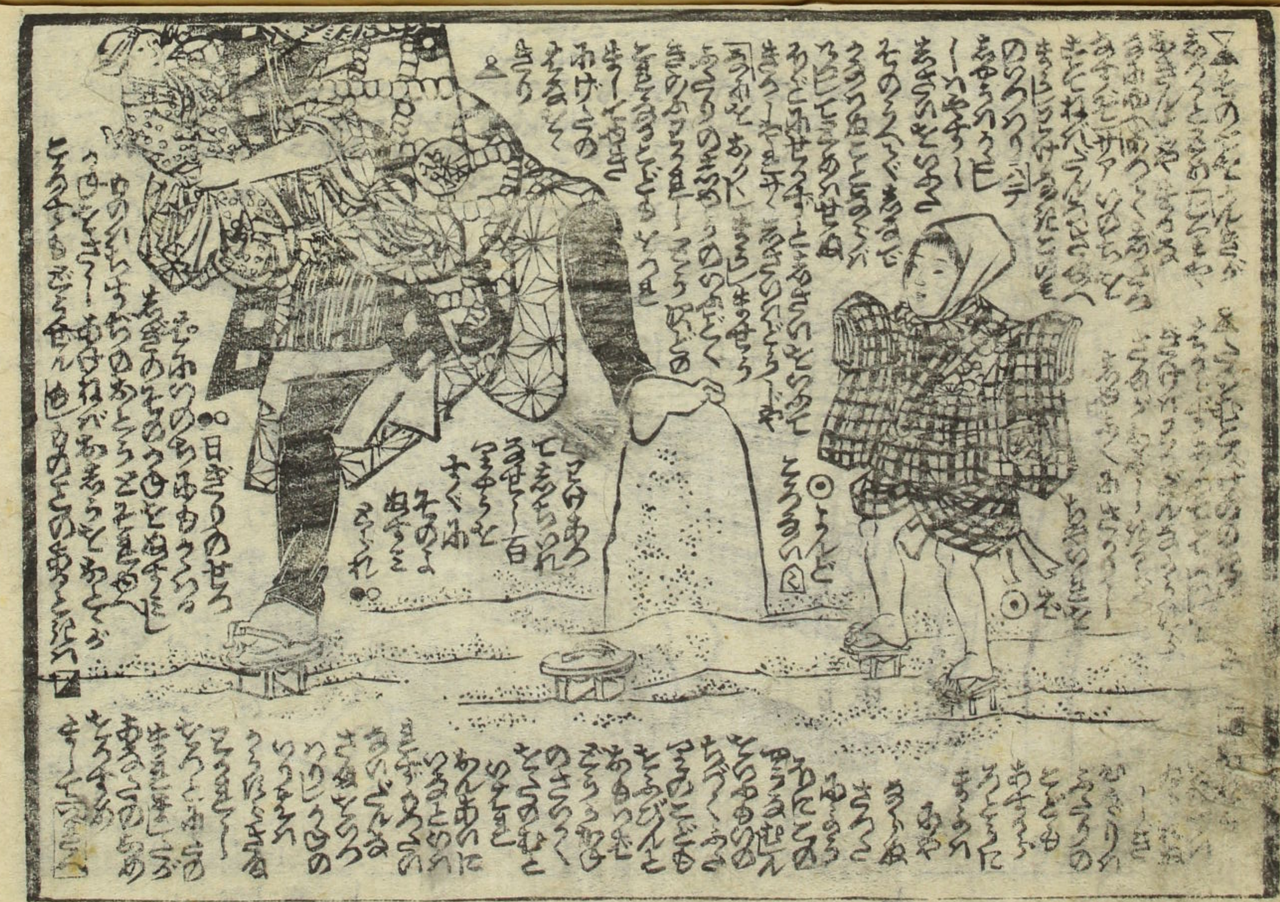
三題噺高坐新作 三編上の巻 川竹新作 よしゑ 山口板

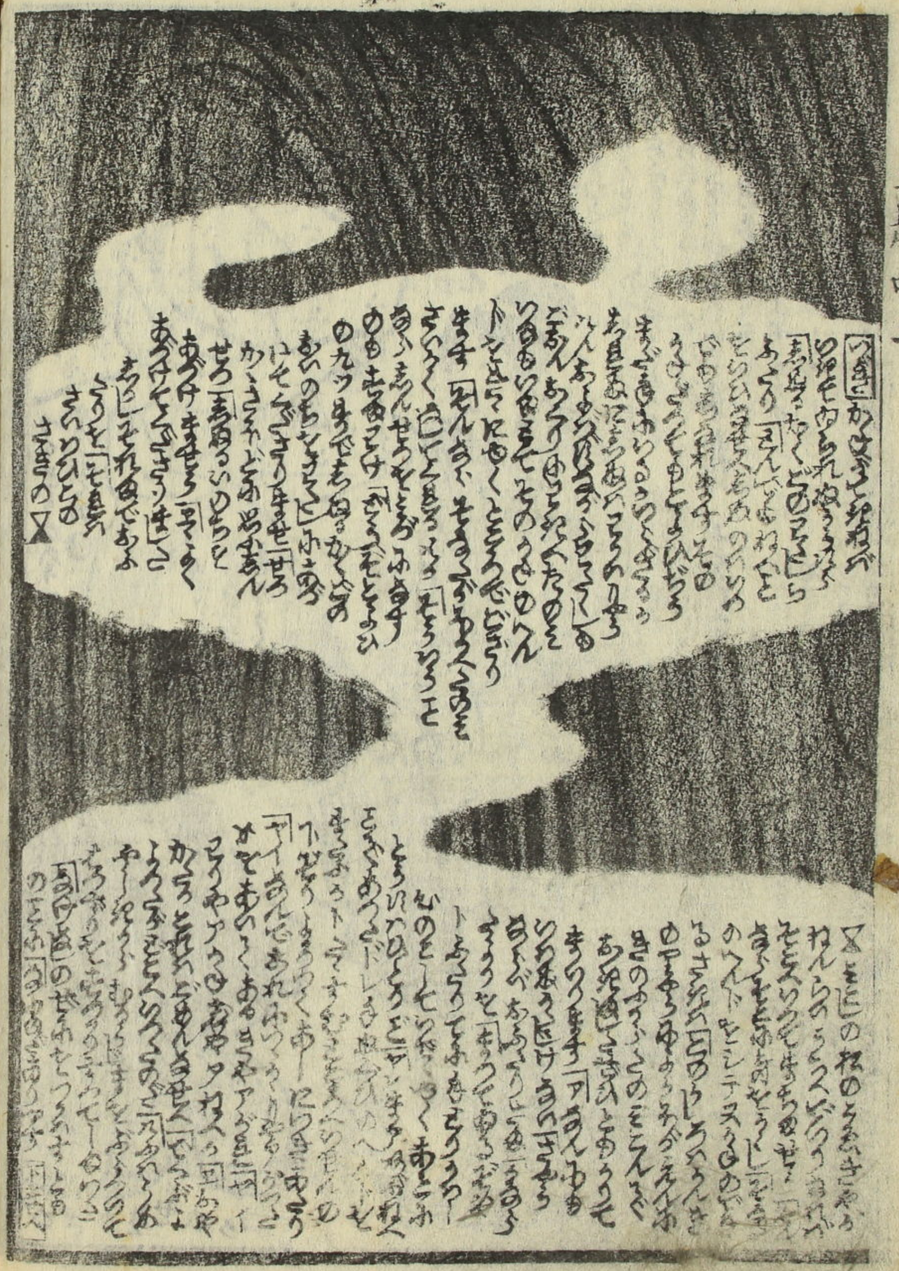
髪結爲
和國橋の藤次
下刺黒打の兼

平野屋幸次郎
大國屋の千山



本長崎町





遊仙沓春雨艸紙　二十編　編　緑亭川柳作　一壽齋國貞画

田舍織糸線狹衣　五編　六編　仝作　同画

父漢土　母和朝　國姓爺一代記　中本三編　初編ヨリ　讀切マテ　假名垣魯文編　歌川芳直画

月宴更科譚　二編　三編　松園梅彥作　一勇齋國芳画

天神一代記圖會　中本一冊　柳下亭種員著　一勇齋國芳画

容色仙代萩　三編ニテ　讀切　一筆菴英壽作　一雄齋國輝画

東都書房　馬喰町貳丁目　錦耕堂藏板

三題噺高座新作 三編 大尾

下

河竹新七作
竹柴濤治錄
竹柴諺藏綴
一惠齋芳幾画
錦耕堂壽梓

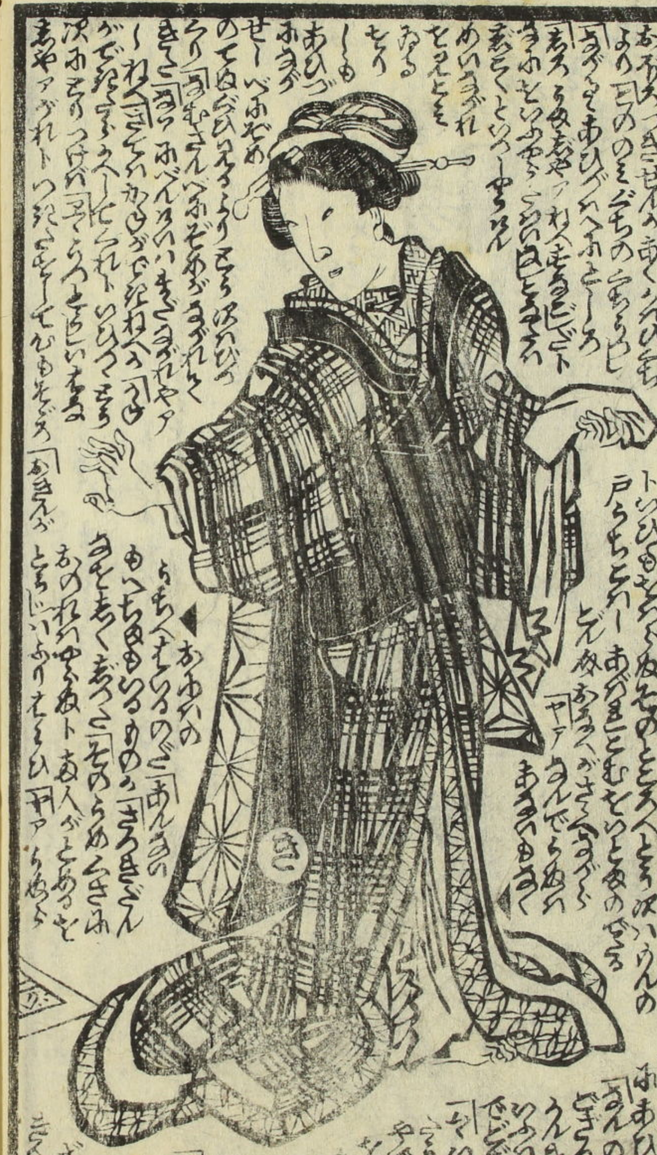
三

三題出三

河竹新七作

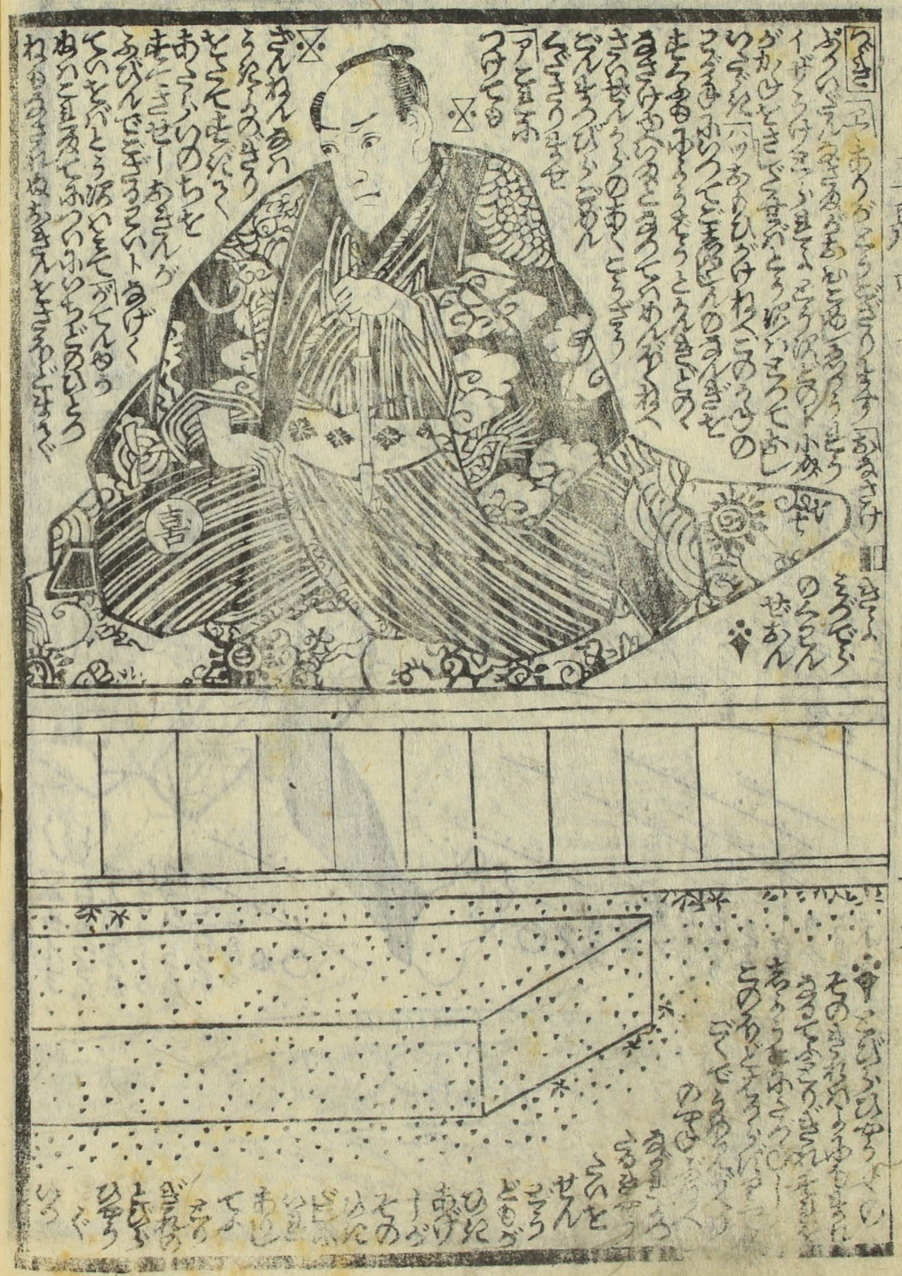
芳美画

三編の下



つゞき　おきんふむらひ「うらのふぢ」をもそこひをのこしまんでまめいあぐのをもさこのざ「そこひ」ぐらのちもそこるいうをきさるはるるあへ「まおうのかをきふもちもねとへいとふんころれの白」げふサアもうけとのみのうのこみそつのふのふもどこひとうねぢひるふあるもうるくめそうけであろうふそさるぐんるさるあそのこんをもえうこまの百あとのふぐいまいのえのこむーんまうせーんろうはーあうとうるは」おんぞうくうくうをいうんてーうとあうこぐんもぐぐうりをせうぐさうくさういうろうけでいあいくとへうろうのこうのこでもうちふうけうるエるうくぐるはふかねぐんまうこ」ふりうこんにうぢうりさるのんのちふうくさうこいあへこまこうくあねぐひまうをーうどバ◎あくこさるのぐそイおうこうごんんけへのぎうぐそふおをこうりへむりうるぐんせうぐくうろへべだぐあのうるぬぐひうぐこうとうぐうぐこいあえもあのこのこのあうこをふてうるぬうるうるぐんぬぐんぬぐんうんきぐのんのぎうぐそとふれぐるんぎをあうぐそうあるそとまあうもあうのふをあるつこうんんもいふうぐんぐうぐーうんうふをうのうこもあうぐんけいの「てうさんれぬうぢうぐこうのせイおつけーんねすあうとのいぬちうのるそとけえぐぬうぐんぐうぐーうぐぬすををぢてうるサア地やそうろとふぐんぐーうぐぬすををぢてうるサア地やそうろと

こあうてうのごんけへあうりこうふをるぬとあうこうをるそのぎうりのうるうこうぐうのちとまこそふそうろこぐうるあうろうそうるあうろうのうぐぎをこすけうんねぢうりのうりかりくこそうのつそうそまいとうのいんぐうぐんふりのちとまてーうのおぐいうぐんうまりのとあんぐんうまりのうてうるいぬ百あのきんすをあんぐうるやうのうちをもてくのこのあれぐんぐうぐぢうるうへてうぎうりまもせトうくこのれぬぐうのひれまんべうぐうぐいあうるうるぐんぬぐんぬぐんうんきぐのんのぎうぐそとふれぐるんぎをあうぐそうあるそとまあうもあうのふをあるつこうんんもいふうぐんぐうぐーうんうふをうのうこもあうぐんけいの「てうさんれぬうぢうぐこうのせイおつけーんねすあうとのいぬちうのるそとけえぐぬうぐんぐうぐーうぐぬすををぢてうるサア地やそうろとふぐんぐーうぐぬすををぢてうるサア地やそうろと



市
幸

藏販新刊珍奇雜書略目録

阪東太郎後世譚 九編 西馬作 十編 貞秀画

俠銘鑑 三編 西馬作 四編 國輝画

岸柳四魔談 四編 同作 五編 國輝画

伊賀越仇討 樂亭西馬作 一鶯齋國周画

勸善懲惡乘合噺 七編 柳下亭種員作 八編 一壽齋國貞画

詞花萱草紙 初編 墨川亭雪麿作 二編 一雄齋國輝画

初昔見聞着紙 編有人作 三編 芳盛画

松園白妙譚 二編 泉成作 三編 國明画

今様八犬傳 七編 春水作 八編 國芳画

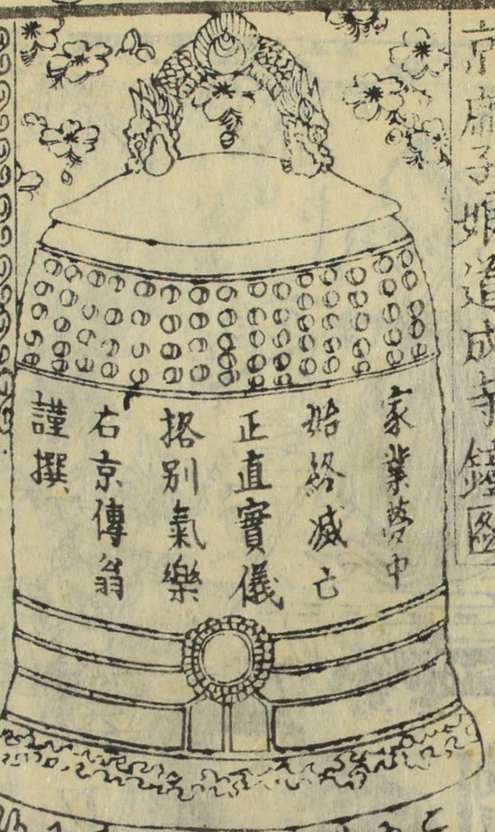
書物地本 繪草紙問屋 東都馬喰町二丁目西側 山口屋藤兵衛

京鹿子振袖日記

初上中下

寅の新板上

京庵子娘道成寺鐘圖



天保十二年辛丑孟
春稿本同初冬梓成
天保十三壬寅年
春正月發販通商

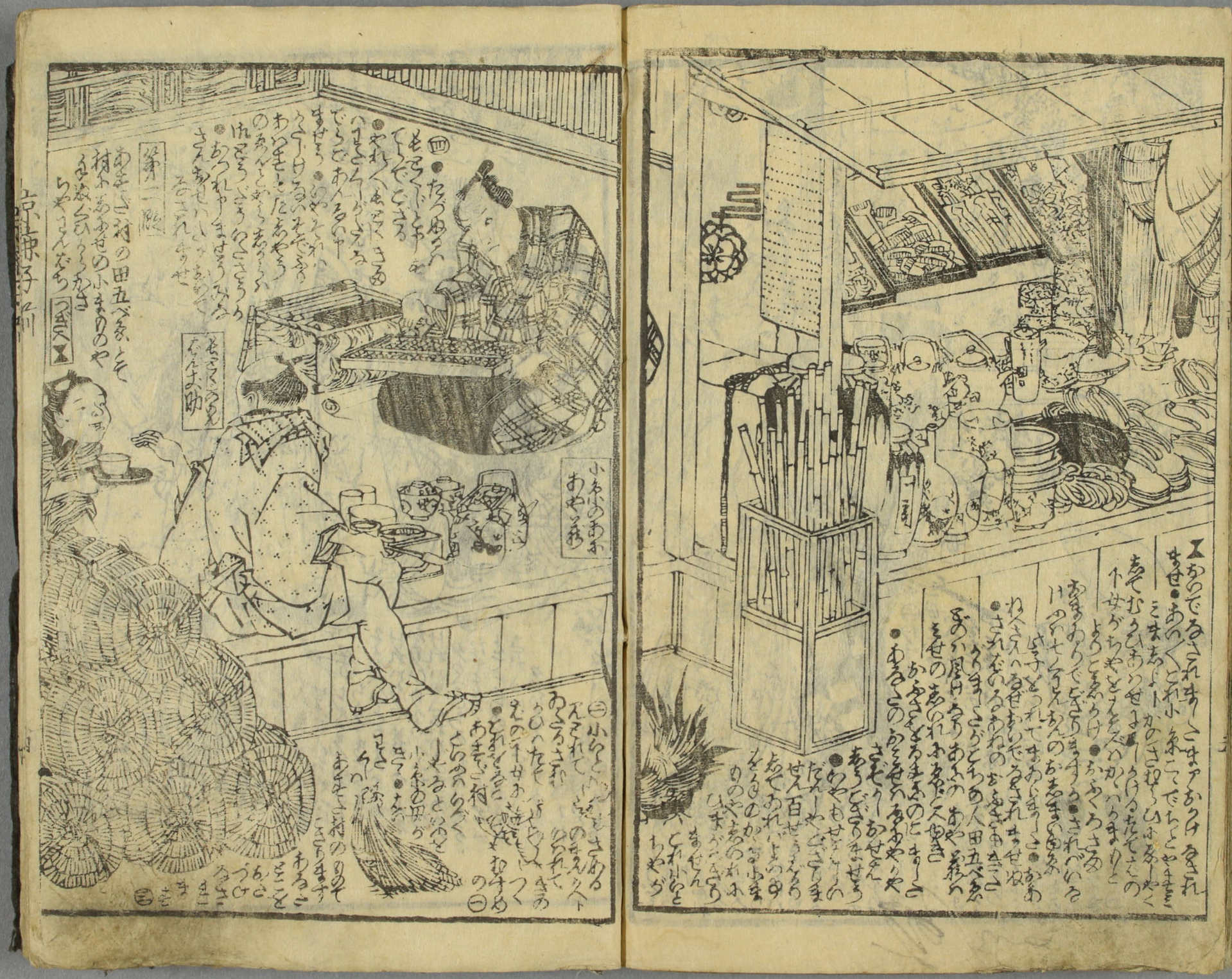
山東菴京山

関取
真子の
左次去清が
娘清姫

花川
佐七郎
白
あんちん
丸
日高川
俠者
本朝丸の
綱五郎
阿隅
田村
田五ヘ多
娘
小糸

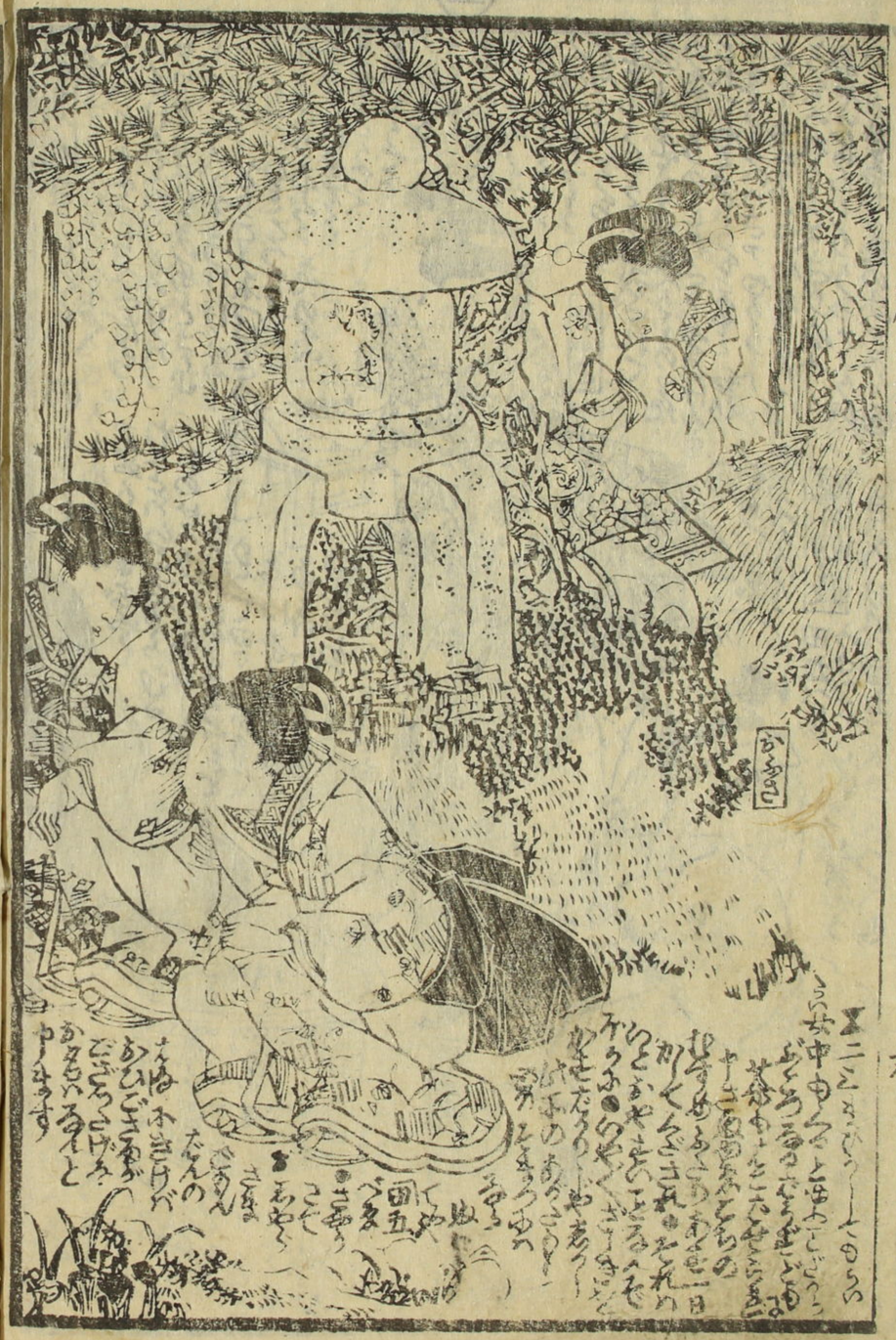
京麻子前
京麻子前編上巻
発端 第一段

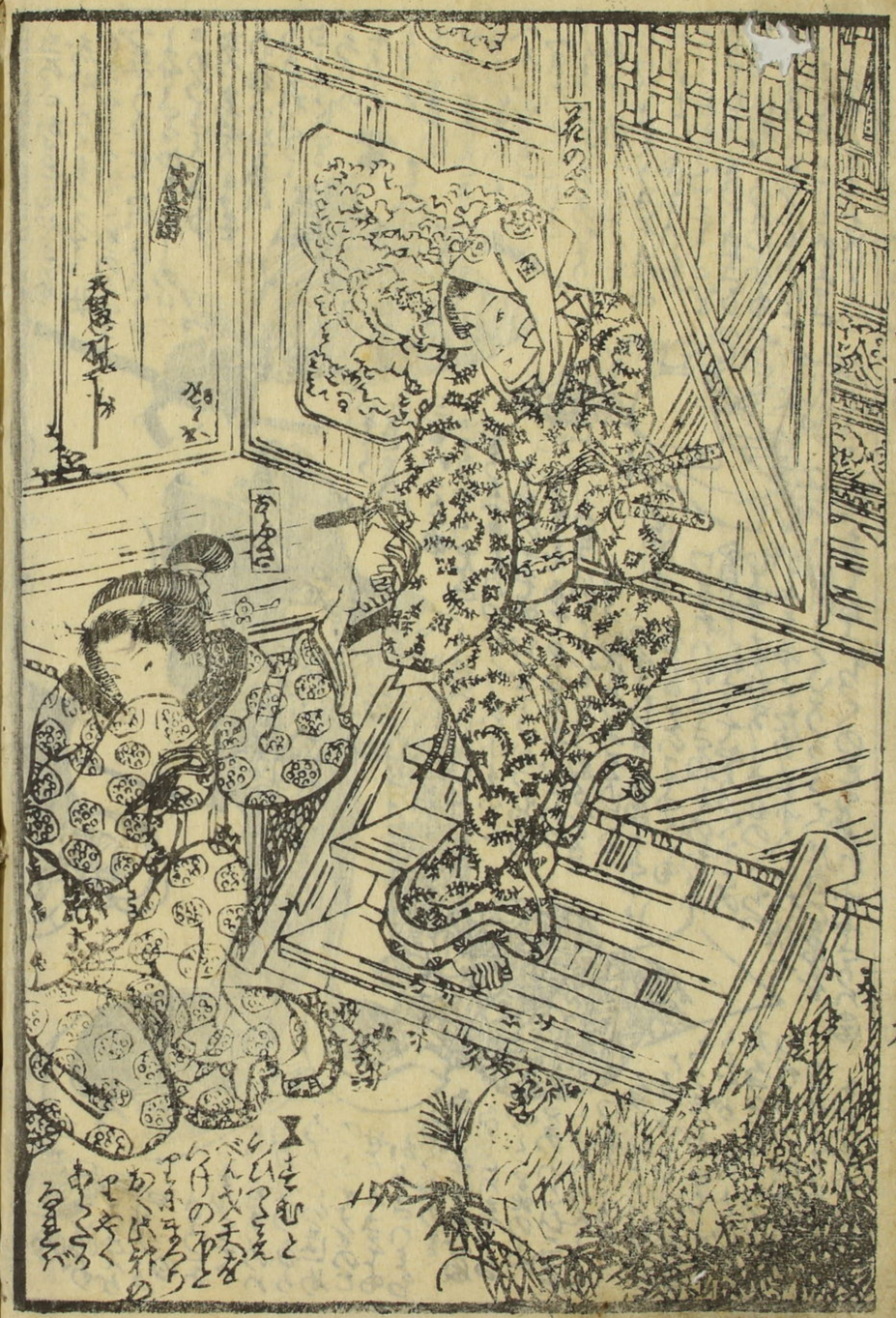
藤岡立場
仙女香美玄香
錢菊
母



第二段

第四段





かいのちをすてまいらせぬさう　ゐさうせめてかゝどのびんむしを　みさをおぼへべんけいてんとおもひ　そいのりけりまいらす戸びら　のまちふとゑわりて●つぶ名を　よばれるふしめのぞと戸びら　ひらいてたちよりつる　まぐさを月みてとひ　みておふさいぶりつくり　●ヤアわるさいれ　花のおさま　こへいでりして　かんにんしてもらうぞ㊀

㊁それがしも一つのねがひあつてけらい　へもつてきらくしすきさとやらせて　ところまちおりそちやゝ京ふ　めのやゝたのこころでいるこの　むすめで田五へ名が　むすめ㊂

●㊃ふさとやまを　らやしきのの　むまめあれにそ　あそやゝあらまれ　上やるいのそふ　上下のへぐそれ　ゐのところざら　今ゐさおさ　やらさあとと　あとそをれる　られさまる　身をとるをて　戸びらの　うち　月の　名まえ　うれ　けり

清浄 精製 白妙（しろたへ）　一包代三十二銅

此しろいハいろ白く色の黒き方ハ男女ともかならずかゝらぬ（…）
ふところの中へ入（…）
（…）
（…）

本家網合所　青物屋　江戸中橋広小路　札林堂　西宮弥兵衛